

8 成田市

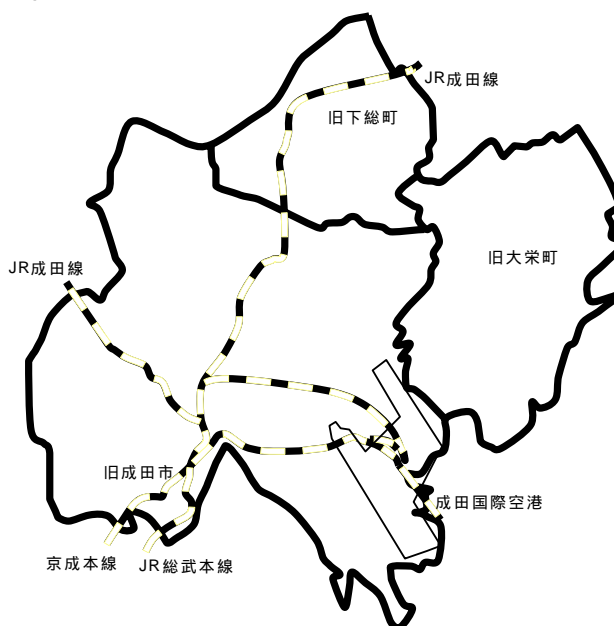
(成田市・香取郡下総町・同郡大栄町の合併)



市章

成田市の頭文字「N」を人の姿に重ね合わせたイメージをデザインし、四肢の伸びは躍動感と疾走感、中央の赤は成田市民の熱い情熱、「NARITA」は日本と世界との交流拠点としての国際空港都市を表し、成田市の明るい未来への飛躍とさらなる繁栄への願いが込められています。(成田市ホームページより)

巻末差込の別紙にカラー版あり。



(1) 概況

合併方式 編入方式(香取郡下総町及び同郡大栄町を廃し、その区域を成田市に編入する)

合併期日 平成18年3月27日

事務所の位置 成田市花崎町760

人口 121,573人(平成18年3月1日現在常住人口)

面積 213.84 km²

初代市長 小林攻

初代議長 岩澤衛

議員定数 30人

位置・地勢等

成田市は、面積は約214平方キロメートル、人口は約12万人。千葉県北部中央に位置する中核都市です。

北はとうとうと流れる坂東太郎・利根川をへだてて茨城県と接し、西は県立自然公園に指定されている印旛沼、東は香取市と接しています。

市の西側には根木名川、東側には大須賀川が流れ、それらを取り囲むように広大な水田地帯や肥沃な北総台地の畑地帯が広がっています。北部から東部にかけての丘陵地には工業団地やゴルフ場が点在し、南には日本の空の玄関口・成田国際空港があります。

また、市の中心部である成田地区は 1000 年以上の歴史がある成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参拝客でにぎわいます。市内にはほかにも数多くの寺社が点在しており、豊かな水と緑に囲まれ伝統的な姿と国際的な姿が融和した都市です。

成田市は、水と緑の豊かな自然環境の中に“静”と“動”の二つの顔を持っています。“静”の顔は、年間数多くの参詣客を集める成田山です。一方、“動”の顔は、日本の空の表玄関・成田空港です。(成田市ホームページより)

(2) 合併の背景等

(合併申請書添付書類「合併を必要とした理由」より)

合併を必要とした理由

(1) 空港とともに発展する都市の実現

地方分権が進展する中、市町村は、住民の生活圏の拡大や住民ニーズの多様化・高度化に対応した質の高い行政サービスの提供が求められている。一方、地方財政においては、長引く景気低迷に伴う税収の漸減、地方交付税制度の見直し等により、一層激しさを増している。

このような状況の下、総合的な行政能力の向上を図り、少子高齢化等さまざまな行政課題に対応していくためには、行財政基盤の強化がさらに求められている。

そのためには、空港機能の拡充、成田新高速鉄道の早期開業・新駅設置、北千葉道路や圏央道の整備促進が喫緊の課題である。

このことにより、空港の持つ潜在力と地域特性を最大限活かした行政施策を展開し各種産業を活性化するとともに、都市基盤や生活環境を整備することにより、名実ともに国際空港都市にふさわしいまちづくりを目指すことが合併の大きな目的である。

(2) 生活圏と空港圏の一体性の確保

成田市、下総町及び大栄町は隣接し、成田国際空港の開港に伴って、人々の交流や経済的な結びつきが強い地域となっている。

また、成田市は、成田国際空港の開港及び業務核都市として位置づけられることなどから急速に発展する中で、下総町及び大栄町の住民の多くが、成田市内へ通勤・通学し、買い物を行うなど、成田市への依存度を高め、生活圏・経済圏の一体性が増している。

また、下総町及び大栄町は、いわゆる空港圏を構成する団体であり、騒音下地域の一体的な空港対策や土地利用策、あるいは、空港の完全化を見据えても非常に関わりの深い地域であり、広域的に連携したまちづくりが必要である。

このことにより、国際空港都市としての「格」を向上させるとともに、地域間競争力を高め、将来にわたり安定した行政運営の下、質の高い行政サービスの提供が可能となるまちづ

くりを目指すものである。

平成 15 年 9 月に成田市から、市町村合併に関する基本的な考え方として、「生活圏」と「空港圏」の合致する地域での合併を目指すとの方針が示され、下総町及び大栄町がこの方針に同調し、平成 16 年 3 月 1 日に「成田市・下総町・大栄町合併協議会」を設置した。

以降、別添「合併協議経過一覧」(引用省略) のとおり合併協議を進めてきた。

(3) 合併の経緯等

平成 14 年

12 月 15 日 成田市、富里市、栄町、下総町、神崎町、大栄町、栗源町、多古町、芝山町、横芝町による成田地域任意合併検討協議会設置

平成 15 年

1 月 25 日 松尾町、蓮沼村が成田地域任意合併検討協議会に参加

2 月 12 日 松尾町が協議会から離脱

3 月 5 日 成田市議会が法定合併協議会設置議案を否決

3 月 15 日 成田地域任意合併検討協議会廃止

9 月 5 日 成田市長が市議会で市町村合併に関する基本的な考え方を表明(「生活圏」と「空港圏」が合致する 2 市 4 町(成田市、富里市、下総町、大栄町、多古町、芝山町)を最大の枠組みとし、合併方式は編入方式とするなど)
これに対し、下総町、大栄町は成田市案を了承。富里市、多古町、芝山町は新設合併を要望。

9 月 26 日 下総町が中学生との対話集会を開催

10 月 3 日 成田市内 14 会場で市町村合併を考えるためのタウンミーティング開催
~ 11 月 14 日

10 月 大栄町合併に関する町民アンケートを 20 歳以上の全町民を対象に実施

11 月 10 日 成田市が市民アンケートを、市民 10,000 人を対象に実施

11 月 28 日 大栄町が成田市に合併に対する基本的な考え方を提出

11 月 28 日 下総町が小学生との対話集会を開催

12 月 4 日 下総町が成田市に合併に対する基本的な考え方を提出

12 月 25 日 下総町が合併に関する町民アンケート調査を、全世帯を対象に実施

平成 16 年

1 月 8 日 2 市 4 町首長会議開催

成田市の編入方式に下総町、大栄町が同意し、富里市、多古町、芝山町は新設方式を主張

- 1月15日 成田市、下総町、大栄町で合併協議に入ることを確認
- 1月31日 成田市内3会場でタウンミーティング開催
~2月6日
- 2月13日 成田市議会、下総町議会において、成田市・下総町・大栄町合併協議会設置議案の議決
- 2月16日 大栄町議会において、成田市・下総町・大栄町合併協議会設置議案の議決
- 2月26日 成田市・下総町・大栄町首長会議開催
合併に関する基本4項目を確認
- 3月1日 成田市・下総町・大栄町合併協議会設置
- 3月6日 第1回合併協議会
・合併の方式を承認
・合併の期日（合併特例法期限内）を承認
・新市の名称を承認
・新市の事務所の位置を承認
- 5月19日 成田市、下総町、大栄町が県に合併重点支援地域の指定を要請
- 5月27日 県が成田市、下総町、大栄町を合併重点支援地域に指定
- 7月10日 新市建設計画基本構想(案)に関するパブリックコメント実施
~8月10日
- 7月24日 成田市、下総町、大栄町で新市建設計画基本構想案説明会開催
~8月1日
- 12月5日 新市建設計画(案)に関するパブリックコメント実施
~27日
- 12月11日 新市建設計画(案)住民説明会を成田市で10回、下総町4回、大栄町6
~27日 回開催
- 12月24日 第10回合併協議会
・合併の期日を承認
- 平成17年
- 2月5日 大栄町において合併住民説明会を開催
~6日
- 3月15日 第13回合併協議会
・新市建設計画を承認
合併協定書調印（ヒルトン成田）
- 3月16日 成田市議会、下総町議会において、合併議案の議決
- 3月18日 大栄町議会において、合併議案の議決

3月25日 成田市長、下総町長、大栄町長が県知事に合併申請書を提出
4月6日 県議会において、成田市、下総町、大栄町の合併議案の議決
4月12日 成田市、下総町、大栄町の合併を県知事が決定、県知事から総務大臣に届出
5月13日 総務大臣による合併の告示
平成18年
3月27日 合併

(4) 合併の特徴

庁舎の位置

成田市役所（下総町役場、大栄町役場は支所）

議会議員の取扱い

在任特例適用（期間：平成19年4月29日まで。定数62人）

期間終了後の定数及び選挙区：30人。選挙区は設けない。

農業委員会の取扱い

在任特例適用（期間：平成19年3月31日まで。定数46人）

（期間：平成19年4月1日～20年7月19日。定数32人）

期間終了後の定数及び選挙区：新市において調整する。

地方税の取扱い

1市2町で差異のあるものは原則として成田市の例に統一する。

地域自治組織

設置しない。

合併後の住居表示

- ・成田市 現行どおり
- ・下総町 字の区域と名称は現行どおり
- ・大栄町 字の区域と名称の一部を変更

(5) 合併関係市町村の概況

成田市

人口 101,218人（平成18年3月1日現在常住人口）

面積 131.27 k m²

沿革 昭和29年3月31日合体（市制施行）

成田町、遠山村、久住村、豊住村、中郷村、八生村、公津村

市長 小林攻（合併時）
議長 岩澤衛（合併時）
議員定数 30人（合併時）
職員数 975人 うち一般行政職 565人（平成 17 年 4 月 1 日）
財政規模 普通会計歳出合計 42,342,726 千円（平成 16 年度決算）

下総町

人口 7,668 人（平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口）
面積 32.00 k m²
沿革 昭和 30 年 2 月 11 日合体 滑河町、高岡村、小御門村
町長 可瀬力（合併時）
議長 瀬尾幸雄（合併時）
議員定数 16 人（合併時）
職員数 99 人 うち一般行政職 61 人（平成 17 年 4 月 1 日）
財政規模 普通会計歳出合計 2,991,909 千円（平成 16 年度決算）

大栄町

人口 12,687 人（平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口）
面積 50.57 k m²
沿革 昭和 30 年 4 月 15 日合体 昭栄村、大須賀村
町長 佐藤末勝（合併時）
議長 飯塚俊一（合併時）
議員定数 16 人（合併時）
職員数 137 人 うち一般行政職 81 人（平成 17 年 4 月 1 日）
財政規模 普通会計歳出合計 4,342,236 千円（平成 16 年度決算）



成田市役所本庁舎



旧下総町役場（現下総支所）



旧大栄町役場（現大栄支所）